

本日訪れる文化財

欄外 長後豊川稲荷

会場をスタートしてすぐ左手に表れます。鎌倉・浄智寺山門近くに建てていましたが関東大震災で倒壊。復興が難しい状況にあつたため長後の代表等が長後にお迎えしたいと願い出て実現しました。後長後町の守護神となりました。
ハイキング誌では別のコースに入っておりますが今回は欄外としました。

1 庚申堂

庚申とは「かのえさる」というありがたい神様です。庚申待ちという祭事はかのえさるの夜、徹夜でお祈りをし旅人の安全や部落の繁栄を祈願しました。いま歩いてきた道とお堂の左側の道が旧大山道です

2 稲荷大明神

かつてはお参りする人も多くたいへん栄えましたが、いまは住宅街にひっそり建っています。

3 諏訪神社

上高倉の鎮守様。創立は天文三年(1738)です。大々木に囲まれたお堂は陽の暮れるのも忘れて見に行けた幼い日々を思い起こし懐かしさを感じます

4 大山道標

生け垣の奥に人々から忘れ去られたように建っています。小首をかしげ頬に手とあつた如意輪観音像の仕草は色っぽさを感ずります

5 恵母地蔵(えもじぞう)

明和四年(1767)冬、飢饉がおそい江戸から難民がこの地に逃れてきました。ある朝、飢えと寒で凍死した母親の胸の中で泣く赤ん坊を近所の農家の方が見つけました。母子見と自家の墓地に埋し、その子を成人させ嫁がせたそうです。村人は母の供養のためにお地蔵様を建て恵母地蔵と名付けました。

6 二十三夜塔

恵母地蔵のすぐそばの信号を渡ると4~5m左側に石の塔がたつています。この塔は二十三夜に講中が集まり勧行・飲食を共にし月の出を待ちます。これを二十三夜の月待ちといいます

7 大日如来

この付近は沢野家と青木家がとて多いことに気が付きます。甲斐・武田家の家臣にあつた沢野外記と青木但馬という武士が戦いに敗れ、この土地に逃れて来ました。そして原野を開拓したと伝えられています。沢野家の守護神であつた大日如来は「大日さま」と親しまれています。

8 せき神様

セツ木神社の手前、崖の下にお滝ばあさんと呼ばれる石仏が安置されています。この石仏の背後から清水が湧き出しており、この水を飲むと咳が止まり、眼を洗うと眼病が治る。霊験あらかたとして敬われてきました。

9 セツ木神社

この近くに点在し青い苔むしたサバネ神社あつてです。従って祭神は源頼朝の父義朝です。
この社の鳥居は木造で「両部型」といわれる珍しいものです

10 岸田邸長屋門

高倉中学の前を進みますと突き当たりが岸田邸です。左に折れますと長屋門があります。約250年前(江戸時代後期)のものと思われ、幕府の役人などを迎えるときに開いたとのこととす。

11 子育て地蔵

果樹園の間を進み、右手の郵便局を過ぎると丁字路で突き切ります。少し左方に子育て地蔵尊(延享三年1746)が建てられています

12 東勝寺

“剣投せし古戦場、石高い新田義貞に敗れ鎌倉東勝寺裏山で北条一族は自刃した。その後、密かにこの地に移されたと伝えられています。当時の人にとって危険な行為と思われ、いまは堂々と北条家の家紋がお堂を囲っております。

13 稲荷大明神

この一角には石の卒がずらりと並んでいます。

神々を紹介するに簡略にし過ぎたため神々の怒りを買ってしまいパソコンが不調となってしまいました。

やむなく手書きとしましたが乱筆で読み難くしてしまいました。お赦しください

広瀬